

令和2年11月4日(水)  
令和2年度 第2回  
大阪府河川構造物等審議会  
三大水門景観検討部会

資料 1

---

## 第1回三大水門景観検討部会を踏まえた論点整理

---

# 第1回部会の議事概要

## ●改築する三大水門の景観検討方針について

	意見	検討すべき内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観形成の目標について「後世に遺産として残る」ではなく、現役で大切に使うものということで、「後世にわたって残る優れた社会資本」などの表現の方が良いのでは。</li> </ul>	「景観形成の目標」の修正
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンペの開催について、水門本体にアイデアを出しようがあるのか。</li> </ul>	アイデアコンペについて
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンペについては、次回以降に議論する必要がある。</li> <li>安治川水門周辺で開発の可能性があること、シンボリックな水門の更新ということもあり、地元住民の防災意識向上につながれば良い。</li> </ul>	アイデアコンペについて

## ●木津川水門の景観設計において配慮すべき事項と進め方について

	意見	検討すべき内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計のプロセスとしてまずは配置とボリュームを検討し、次に形態、構造や意匠、最後に素材と色彩の検討ではないか。</li> <li>設計において「決まっていること」と「改変可能なこと」を整理すること。</li> </ul>	景観検討の考え方 論点 設計条件の整理
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械設備や操作室など基本的な機能や構造により、どの程度デザイン設計に制約を与えるのか整理すること。</li> </ul>	論点 設計条件の整理
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろんなものが後から必要になることは避けられないので、トータルに考えて、いろんなデザインをやっていく必要がある。</li> </ul>	論点 設計条件の整理
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>扉体を二分割すると、高さの低減だけでなく、重心が下がるので、地震時にも有利になるのではないか。</li> </ul>	論点 ボリュームの低減（扉体）
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>堰柱を丸くしても、実際は船がぶつからないための柱が必要になってくることも考えられる。その柱が必要ならば、デザインを考え直さないといけない。</li> </ul>	論点 ボリュームの低減（柱）
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理橋と建屋も一緒に考える必要がある。機械設備の配置もデザインに大きく影響する。数少ない優れたデザインの水門では、標準的な機械の配置ではなく、苦勞して、ボリュームを減らすことをやっている。</li> </ul>	論点 ボリュームの低減 （巻上機室・管理橋）
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>2枚ゲートにすると設備が増え、コストや維持管理の問題が出てくる。門柱についても、耐震性などに問題があるかもしれない。そういったことも比較検討する必要がある。</li> </ul>	論点 ボリュームの低減
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観検討のポイント①地域との関係が重要。どれだけ地域と調和できるか。②華美な装飾よりも構造美③スカイライン。陸屋根だけではなく勾配屋根で検討してみるということも大事。④物語性。船から見るときに水門の解説ができる話や魅力的なスポットとして生まれ変わることが付け加えられないか。</li> </ul>	景観検討の考え方 論点 景観デザインの工夫
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>階段や信号、サインなどは見た目に大きな影響がある。水門だけでなく、全体を考えないと美しくない。</li> </ul>	論点 景観デザインの工夫 論点 周辺との一体的な設計
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>デザインを追求しすぎると、問題が発生することが多い。躯体にどのような力がかかっているのか、機械設備はメンテナンスや更新を踏まえて配置を考える必要がある。</li> <li>一方で、現在は、維持管理が重視され、インシャルコストがかかっても維持管理しやすい設計が主となり、デザインの工夫しろがなくなっている。</li> <li>木津川水門はほとんど誰も見ない現実もある。どこまで工夫するのは議論が必要。</li> </ul>	論点 ボリュームの低減 論点 景観デザインの工夫 景観検討の考え方
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰も見ない水門かもしれないが、非常に大きい水門で遠方からでも見えるし、一つの防災の機能、シンボルとして、防災教育などの使い方もあるのでは。防災教育や展示室のようなものを設けるべきか。</li> </ul>	景観検討の考え方 論点 周辺との一体的な設計
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>現水門の管理棟敷地（右岸側）が新たな視点場になるのではないか。</li> </ul>	論点 周辺との一体的な設計
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>水門本体だけを議論するのではなく、周辺の土地についても何らかのイメージ作成し、できるだけ一体的に設計したほうが良い。</li> </ul>	論点 周辺との一体的な設計

## 第2回部会における論点

- 改築する三大水門の景観検討方針について(資料2)

### 論点 景観形成の目標の修正

- 木津川水門の景観設計において配慮すべき事項について(資料4)

### 論点1 設計条件の整理

### 論点2 ボリュームの低減

- 扉体
- 躯体(堰柱・門柱)
- その他(巻上機室・管理橋・エレベータ)

### 論点3 景観・デザインの工夫

### 論点4 周辺との一体的な設計

- 水門本体以外の設計
- 周辺土地の利活用
- 付加価値への対応